

膣内フローラ検査

マイクロバイオーム解析士®による
個別アドバイスパ付き

VAGINA



女性が健康的に輝いていられるためには、膣内環境はとても大切です。

女性は10代からの月経から始まり、妊娠、出産、そして閉経までと、膣内の環境は大きく変化していきます。日々のストレスや加齢により膣内フローラが乱れると膣や子宮内に悪玉菌が増えてしまいます。

そうならないために膣内に必要なのがラクトバチルスという乳酸菌です。

ラクトバチルスから産生される乳酸が膣内やデリケートゾーンを酸性にして外部からの雑菌から守ってくれます。ご自身の膣タイプを知り、いつの年代でも輝いて気持ちよく過ごせるように、膣ケアを始めましょう。

お名前: 京 和子 様

検査日 :2024/2/15

検体番号: REG-V-0081

MB解析担当:

あなたのCSTは 2型

1 型	L. crispatus	4 型	ABC(Cは5つに分類)
2 型	L.gasseri	5 型	L. jensenii
3 型	L. iners	6 型	その他

CST とはCommunity State Type の略で腔内の細菌の割合でタイプ別に分類しています。
 CST 1、2、3、および 5 はすべて、単一のLactobacillus種によって支配されており、CST 4 の方は細菌性
 膣炎（Bacterial vaginosis）、好気性膣炎、尿路感染症、不妊、早産などのリスクが高い状態です。
 CST 4 はさらに3 つの小さなサブタイプに細分され、4-C はさらに 5 つの追加のサブタイプに分類されてい
 ます。その他のラクトバチルス種の優勢菌種によりCST5とCST6に分類されます。

ラクトバチルスの割合 90%以上が理想		BVリスク細菌の割合 0%が理想	
20.67	%	0.58	%

乳酸菌が減ると細菌性膣炎になりやすくなります。
 乳酸菌が減少する原因はいくつかあります。
 抗生剤、性交渉、膣の洗浄、ストレス、女性ホルモンの変動（ピル、
 生理）などになります。
 細菌性膣炎に原因菌があるというよりも、何らかの原因で腔内の細菌
 バランスが崩れた時に発症します。
 細菌性膣炎は、以下の性感染症と症状がよく似ています。
 ・淋菌 ・クラミジア ・トリコモナス ・カンジダ

早産リスク細菌	0.00	%
不妊リスク細菌	2.88	%

あなたへのアドバイス

あなたのCST は本来なら2型に分類されます。今回は検体の絶対数が少なく、検体採取が困難だったと見受けられます。そのため一般的な2型よりはラクトバチルスが減少しています。2型はLactobacillus gasseriが優勢です。CST 1 よりわずかにpH値は高くなりますが、その他の CST と比較して、4.5 ~ 5.5という低い pH で保護されています。今回BVリスク細菌が0.58%検出されました。乾燥のためか皮膚の常在菌が高い割合で検出されていました。これ以上ラクトバチルスが減らないようにしましょう。膣を洗いすぎるとスッキリ感はあるかもしれませんが、乳酸菌が減ることでむしろ雑菌が増えやすくなります。乾燥によっても雑菌が増えますので、洗いっぱなしを避け、エストロゲン入りのラクトバチルスのソープやインナージェルを使いましょう。腔内が潤うだけでなく自浄作用を助けることができます。免疫力が低下するとリスク細菌が増殖するきっかけになります。腸内環境を整えてストレスを溜めないようにしましょう。